



## TOPICS

### 熊谷市指定有形文化財「銅造誕生釈迦仏立像」の指定と公開

令和7年2月25日付けで、「銅造誕生釈迦仏立像」が新たに熊谷市の有形文化財（彫刻）に指定されました。

本像は、市内永井太田に所在する正蔵寺所蔵（管理は能護寺）の鑄銅製、高さ8.92cmの小ぶりの仏像で、制作年代は8世紀頃（奈良時代）と考えられています。

誕生釈迦仏は、釈迦が誕生した際に、天地を指し「天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）」と唱えたとする姿を表したもので、その多くが、右手を挙げ、左手を垂下させて直立する姿に表現されますが、本像はその逆の姿で、左手で天を、右手で地を指しています。

現在のところ、当該時代に遡る仏像は、埼玉県内でもほとんど確認されておらず、熊谷市の古代の歴史を解明する手がかりはもとより、仏教文化の熊谷市への伝播について考える上でも貴重なものです。

指定を記念して、令和7年5月から7月にかけて、熊谷市立図書館、能護寺、江南文化財センターの3か所で展示を行ったところ、普段は見ることのできない貴重な資料を見に、延べ3,936人と非常に多くの方の来場があり、本市の新たな文化財について知っていただく良い機会となりました。（山川愛）



### 熊谷市野原古墳出土「踊る埴輪」展

「踊る埴輪」は、その造形が埴輪自体を代表するモチーフとして、多数の芸術作品やキャラクター商品となっています。

埴輪の中で最も知名度の高い「踊る埴輪」ですが、この埴輪が熊谷市出土であることは、意外にもあまり知られていません。

そこで今年度は、「踊る埴輪＝熊谷市出土」のイメージ定着を目指し、「踊る埴輪」知名度アップ事業として、御墳印・解説リーフレットの作成、埴輪絵画展、3D計測の実施と1/8スケールフィギュアの制作体験、講座等様々な企画を実施し、熊谷市出土である「踊る埴輪」の魅力をアピールします。

今回は、これに関連した江南文化財センターでの企画展示を紹介します。

同センターホールでは、「熊谷市野原古墳出土「踊る埴輪」～踊る埴輪とそのイメージの波及～」を、5月7日（木）から10月31日（金）まで開催しています。

本展示を通して、この埴輪の歴史的な経緯や、全国的に見ることが出来る「踊る埴輪」の造形イメージの波及について理解が深まれば幸いです。

（大野）



## 市内遺跡発掘情報

### 上之土地区画整理地内発掘調査(速報)

今年度の上之土地区画整理地内の発掘調査は、6月から始まり、現在は上之古墳群、諏訪木遺跡で実施しています。調査箇所は街路築造予定地で、およそ185㎡と調査面積が狭小ながら、これまでに2基の古墳が確認されています。

1基は周溝のみで、墳丘は調査区域外にあると推定されます。もう1基は周溝と墳丘が確認され、墳丘は後世の河川氾濫や耕作による影響などで大きく削平を受けており、目視では確認できず、かろうじて土層断面から版築地業の痕跡が確認できました。この2基の古墳は、周溝や墳丘から円筒埴輪が数多く検出されたものの、葺石は検出されていません。出土した円筒埴輪から、古墳時代後期～終末期(6世紀末～7世紀初め頃)の築造のものと考えられます。なお、まだ調査中のため確定的ではありませんが、周溝の検出状況から、1基の古墳は、墳丘の直径がおよそ5～8mを測るものと考えられます。(腰塚)



調査風景



墳丘版築痕

### 西別府遺跡確認調査

4月中旬から末にかけて、市内西別府に所在する西別府遺跡の確認調査を実施しました。西別府遺跡は、熊谷市と深谷市の境に所在する古代の郡役所とその関連施設である『国指定史跡「幡羅官衙遺跡群」』に関連する遺跡であり、郡寺であった西別府廃寺と祭祀場であった西別府祭祀遺跡の間に位置しています。

今回の調査地点は、西別府廃寺の西側に隣接し、過去に実施した地中レーダー探査の成果を基に計5か所にトレンチを入れて調査を行いました。その結果、官衙関連の遺構・遺物は、北側で掘立柱建物跡と溝跡、東側で竪穴建物跡が確認されましたが、確認された遺構・遺物の大半は、中・近世のものでした。

今回の調査では、幡羅官衙遺跡群で未確認の政庁の発見を期待しましたが、残念ながら見つかりませんでした。しかし、今回の成果により、その候補地が絞られてきたとも言え、いよいよ見つかる日も近いかもしれません(松田)



## 連載 くまがやの古墳群

### ③2 姥ヶ沢古墳群 — 姥ヶ沢埴輪窯跡群に近接して造られた古墳群 —

姥ヶ沢古墳群は、江南地区の千代、荒川を北に望む江南台地の北縁部、標高63～65mに立地していました。

昭和57年(1982)の調査では3基の古墳が確認されましたが、古墳群が立地する台地は、かつては多くの古墳が所在していたと考えられます。

第1号墳は、周辺が削平され詳細は不明ですが、直径12mの円墳と推定されます。周溝は幅約2m、深さ1mで、墳頂部にあった盗掘坑に露出の緑泥石片岩から、埋葬施設は横穴式石室と推定されます。周溝や墳丘からは多数の埴輪片が、周溝からは土師器坏破片が出土しており、これらから6世紀後半代の築造と考えられます。

第3号墳は、北半が破壊を受けていましたが、直径約9mの円墳と推定されます。幅1～1.5m、深さ約0.5mの周溝の底部から完形の土師器坏が出土し、6世紀前半の築造と推定されます。埋葬施設は確認されていません。

なお、第2号墳は規模・時期とも不明で、古墳である確証が乏しいものです。(吉野)



第3号墳全景(北西から)

## 文化財センター通信

### ◇夏休み企画「あなたも古代人」

8月2日(土)から8日(金)にかけて、主に小学生を対象とした古代体験事業を実施しました。例年人気のある体験事業で、今年は総勢178名の親子が参加してくれました。体験メニューは〈くまが玉作り〉と〈踊るはにわづくり〉。「昔の人はどんな道具で作ったの?」「はにわは、どのくらいの温度で焼くの?」等、古代の人々の暮らしにも思いを馳せながら、熱心に作品作りに取り組み、個性豊かな作品がたくさんできました。(茂木)



### ◇「みんなで歩こう! 中山道」事業

江南文化財センターでは、今年度の新規事業として「みんなで歩こう! 中山道」事業を実施しています。

7月から8月にかけて、中山道や街道の歴史に造詣の深い先生方をお招きし、全5回にわたる中山道関連講座「みんなで学ぼう! 中山道」を開講したところ、非常に多くの方の申込みがあり、いずれの回も会場は満席で、盛況のうちに終了となりました。10月には、実際に中山道を歩く体験イベント「みんなで歩こう! 中山道」を開催する予定です。9月末日まで参加者を募っておりますので、興味のある方はこの機会にぜひご参加ください。(山川愛)



### ◇令和7年度第1回『The Great Person of Kumagaya - 熊谷ゆかりの偉人たち -』パネル展

6月9日(月)から6月30日(月)まで、国登録有形文化財「坂田医院旧診療所」の一般公開を兼ね、廊下及び手術室で、熊谷ゆかりの偉人パネル展を開催しました。天候が不安定な日が多かったにも関わらず、18日間で延べ395人の見学がありました。当時、坂田医院に通院されていた方のお話を伺うこともでき、貴重な情報を得る経験となりました。

10月21日(火)から11月15日(土)まで、今年度第2回目のパネル展を同施設内で開催予定です。皆様のご来場をお待ちしております。(小林)



### 【文化財探訪・わが街遺跡巡り】—古代の道に重なる現代の道 池上遺跡—

ここで扱う古代の道とは、古代の土地区画制度である条里制の畦畔(けいはん: あぜ道)のことで、水田地帯に碁盤のマス目のように、古代の長さの単位で1町(109m)間隔に東西南北の方向に直線的に施工されました。

平成13~14年度の上之南交差点付近の発掘調査と、令和2~4年度の道の駅建設に先立つ発掘調査で、12世紀初め(平安時代末)の幅3.4mほどの畦畔が南北方向で5条、東西方向で2条見つかりました。

これをもとに現代の池上・上之地区に目を向けると、アスファルト舗装され東西南北へ直線的にのびる道の中に、109m間隔の古代条里制区画に重なるものがいくつかあります。そのひとつが熊谷生協病院の西側を南北に貫く道路(写真)で、900年以上前のあぜ道だった頃から整備を重ね、人や牛馬そして自動車が通行を続け、現在につながっています。(山川守)



## 文化財コラム 中山道の旅 その3

前回は、久下「一里塚跡」から旧久下橋があった所まで足を進めました。では、また旅を続けることとします。

歩みを少し進め、堤防を右手に下りていくと、途中右手に茶屋「みかりや（御狩屋）跡」があります。ここは、江戸時代、忍藩主が鷹狩りの際に休憩したことが名の由来で、名物はゆべし（柚餅子）でした。また、「かっぱの妙薬みかりやさん」と言われ薬の販売や、各地の講中の定休所ともなっていました。その看板や版木が残されており、有形文化財歴史資料「みかりや」関連資料として市文化財に指定されています。ちなみに、権八（ごんぱち）地藏—みかりや間の本来のルートは北に大きく弓なりの堤防上でしたが、現在完全に残っていませんので歩くことができません。

さて、さらに北西へ進むと久下の通りに再び戻り、ここを左に折れ約700m進めば、県天然記念物「ムサシトミヨ生息地」指定区域の終点に至ります。ここからは、右へ、左へと屈曲するクランク状の道を進みますが、50m程で「熊久（ゆうきゅう）橋」と呼ばれる小さな橋を渡ります。この辺りは、熊谷直実（くまがいなおざね）と久下直光（くげなおみつ）の所領争いの地で、また、江戸に向っていると右に見えていた富士山が左に見えることから「左富士」と呼ばれる場所です。

このクランク状の道を過ぎてさらに西へ700m程進むと、右手に八丁一里塚跡が見えてきます。そして、さらに西へ約200m進んだ所で、北へと足を進めることになります。秩父鉄道線、JR高崎線の順に踏切を渡り、約550m真っすぐ進むと、国道17号線の銀座一丁目交差点に至りますが、ここからはいよいよ熊谷宿（しゅく）に入ります。

今回は旧久下橋があった所から約2.5km進みました。旅は次回へと続きます。（吉野）



「みかりや跡」説明板



「熊久橋」とカルタ  
「熊久橋・左富士」



「八丁一里塚跡」説明板

## 【須藤開邦コレクション展】

江南文化財センターホールで、7月1日（火）から12月26日（金）にかけて標記の展示を行っています。

今回の展示は、市内玉作の旧家・須藤家の当主開邦（さきくに：1854-1933）が収集した、縄文時代から中世にかけての考古資料等を中心に展示しており、初公開となるものです。

開邦は、明治10年（1877）に、市内青山の根岸武香（1839-1902）とともに吉見町の黒岩横穴墓群を調査しており、晩年には、芳水・漁夫と号し、書画・骨董に親しみ、大正5年（1916）には、地域の見聞録『桐窓夜話』を著しています。縄文時代の巨大な石棒や黒曜石製の石器などの貴重な資料を、この機会にぜひご覧ください。（森田）



## 編集後記

今年もやっぱり暑かった熊谷の夏がようやく終わろうとしています。今年度は、新しい事業として「踊る埴輪」知名度アップ事業、「みんなで歩こう！中山道」の2つを実施しており、また、星川将来ビジョンとの関連で、星溪園の活用にかかる社会実験も始まっています。これからも、新たな文化財の保護・活用について、色々と模索しながら進めていきたいと思しますので、よろしくお願いします。（森田）



発行：令和7年9月18日（2025/9/18）

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）  
〒360-0107 埼玉県熊谷市千代329番地

Tel：048-536-5062 FAX：048-536-4575 Mail：c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp